

## 令和5年度 文部科学省次世代のがんプロフェッショナル養成プラン

本学責任者：宇和川 匡（東京慈恵会医科大学附属病院・腫瘍センターセンター長）

### （１）次世代がんプロフェッショナル養成プラン

第4期がん対策推進基本計画では、『誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す』というスローガンのもと、国は本邦におけるがん医療のレベルアップと均てん化を目指しています。その具体的目標の一つに、がん医療人の人材育成の強化があります。本学は、第3期から「関東次世代がん専門医療人養成拠点」に連携大学として参画し、第4期がんプロにおいても継続して、筑波大学を代表校とする連携大学として、文部科学省事業『関東次世代のがん専門医療人養成プラン』に参画し、がん専門医療人材の養成を推進しています。

### （２）代表校・連携大学

代表校：筑波大学

連携大学：千葉大学、群馬大学、日本医大、慈恵医大、昭和大学、埼玉医大、独協医大

### （３）事業期間

2023 年度～2028 年度（6 年間）

### （４）事業の概要

3テーマに対してリーダー校を設置し活動を牽引する。①「支える多領域（千葉大）」では、がん医療を直接は主対象としない領域人材へのがん知識教育と、がん医療者への周辺領域の知識教育を行い、包括的にがん医療を豊かにする人材養成に取り組む。②「データ科学（筑波大）」では、診療ビッグデータを後方視的AI解析をしてがん予防に繋げるデジタル疫学に加え、デジタルデータを扱った未来の遠隔医療の実現に資する人材を養成する。③「治療イノベーション（群馬大）」では新規治療薬や、粒子線治療の開発を推進する人材を養成する。教育基盤として、過去15年に渡る全国がんプロe-learningをさらに発展させ、6科目のコンテンツを全国の拠点と連携して作成する。既にある2000以上のコンテンツと合わせ、ジュークボックス機能を活用し、各大学独自の教材とする。21世紀型の教育の共同実施の実例として、本拠点はその活動の中心的役割を担う。

## (5) ポンチ絵



## (6) 慈恵医大の教育プログラム

大学院医学研究科医学系専攻博士課程、看護学専攻博士前期課程

- ① がん治療を支える多領域養成コース (毎年4名)  
がん治療を支える多領域養成看護師コース (毎年1名)
- ② がんデータ科学推進人材養成コース (毎年3名)
- ③ がん治療イノベーション人材養成コース (毎年3名)
- ④ 上記3つのコースのいずれかのeラーニング科目受講するインテンシブコース
- ⑤ がんチーム医療ワークショップの参加